

想作天文学 [X]

Unidentified Signaling Object

野辺山宇宙電波観測所の45メートル電波望遠鏡を用いてのテスト観測は、順調に進んでいる。筆者は最近、この望遠鏡を用いてパルサーのパルス波形の研究を行っているが、非常に重大な意義を持つかもしれない事実を発見した。パルサーが発見された当初は、何らかの人工的信号(つまり宇宙人による信号)ではないかと疑われたのだが、中性子星の回転ということに、結局は落ち着いた。しかし、筆者の発見は、再び人工起源説に力を与えるものである。

あるパルサー(その名前と位置については、筆者の論文が受理されるまで、残念ながら公表できない。トンビにノーベル賞をさらわれたベル嬢の悲劇をくり返さないためである)の一周期を、512チャンネルで観測し、各チャンネルをさらに512分割して、512×512の各強度に適当な疑似カラーを与えて、カラーグラフィックディスプレイに表示してみた。パルス波形の、波長分布を研究するためである。当然のことながら、数本のしま模様が見られる。ここまでは、通常の処理であるが、筆者はこの画像に対してアムダール変換をほどこしてみた。(アムダール変換とは、アムダール直交関数系を用いて展開する手法であり、カルネン・リュウベ変換とならんで、データ圧縮に用いられる手法であることは、読者は先刻、御承知のことと思う。)それはさておき、変換画像にうまく疑似カラーをつけると、ディスプレイ上にポット、なにやら人間の姿らしきものが浮び上ったのである! 人間といっても、地球人とは少し異なり、ピヤ樽のようなかっこうであった。

そこで、次々の周期に対しても同様な処理をほどこすと、少しずつ異なる画像が現れた。これは映画あるいはテレビの画像かもしれないので、その画像を映画にとっ

て見れば、さらに興味深いと思われる。しかし、残念ながら、野辺山のM200超大型コンピュータの能力を持ってしても、これほど大量のデータ処理は不可能であり、詳しいことは、よく分らない。このデータ処理をハードウェアで行なうマシンの設計を、富士通に依頼中であり、年内には完成すると根尾氏は筆者に語っている。

筆者の想像をあえて言わせていただければ、中性子星自体が生物、あるいはデータ送信マシンではないかと思っている。低温の中性子星表面は結晶化することからしてこの可能性はあながち否定できない。宇宙文明間の通信を行なう時の問題はどの星をどの波長で見えるかが分らないことだが、パルサーほどの宇宙人も注目する天体であり、これを利用すれば前記の問題は氷解する。パルサーは銀河における放送局であるのかも知れない。筆者はこの類の天体を Unidentified Signaling Object と名付けることを、ここに提案したい。先の画像が、本当に宇宙人なのかどうか……、より一層の研究が期待される。

呉能鐘(くれよしかね)

◇ 10月の天文暦 ◇

日	時	記	事
2	14	水星	内合
3	10	望	
9	0	寒露	(太陽黄経 195°)
9	10	月	最近
10	8	下弦	
10	22	水星	留
17	9	朔	
18	3	水星	西方最大離角
19	6	土星	合
20	23	冥王星	合
24	0	月	最遠
24	3	霜降	(太陽黄経 210°)
25	9	上弦	

◇ 10月の日月惑星運行図 ◇

